

「町制施行50周年・ 宗谷管内移管記念」シリーズ

No. 3 名山台と天塩川音頭

昭和45年(1970)町は観光振興を図るため、サロベツ原野の観光施設として国道40号の沿線下沼駅の近くの丘陵に展望施設を建設しました。この年7月に来町した詩人 時雨音羽(しぐれ おとわ)さんが、この展望施設を「名山台」と命名しました。

造られた当時は階段で丘に登るだけのもので、設備が不十分であったことから、国道沿いにありながら横目に見て通過してしまう車がほとんどでした。そこで町は昭和55年に整備計画を立て、約5,000万円を投じて駐車場舗装、便所、遠路、階段、あずまや、歌碑などを設置、修復しました。

さらに平成元年(1989)には本格的な建設に取りかかり、売店、レストラン、トイレを備えた鉄筋コンクリート平屋建ての休憩所と駐車場などを整備し、翌年4月28日に関係者、来賓を招いてテープカットを行い完成を祝いました。

休憩所から階段で展望台へ上がると、昭和55年に建立した歌碑「天塩川」があります。昭和45年に幌延町を訪れた時雨音羽さんが、天塩川河畔やサロベツ原野を散策、その折に音威子府、中川、幌延、天塩の町にちなんだ「天塩川」を作詞しました。翌年8月、八洲秀章さんが作曲してレコードに吹き込まれ、昭和52年には歌手都はるみさんによるレコードが発売されました。

時雨音羽さんは、利尻町出身の歌謡詩人として、戦前、戦後を通じて活躍し、代表作には「出船の港」「君恋し」「銚をおさめて」などがあります。八洲秀章さんは虻田郡真狩村出身で、「さくら貝の歌」、「あざみの歌」「山の煙」などで知られています。

名山台に建つ歌碑は「天塩川」の第4番で、時雨音羽さんが自ら揮毫しました。石は高さ約3m、幅2m、約3tの巨石で、昭和56年6月10日に除幕式を行いました。



展望施設「名山台」の歌碑

歌碑にある歌詞は次のとおりです。

サロベツ原野 花の舞 渡りかねるか 渡り鳥
花をかきわけ 名山の のぞく幌延 母の町
ああ さいはての 天塩川

このシリーズに関するお問い合わせ又は新幌延町史(1冊 5,000円)の購入希望の方は、下記にご連絡ください。

お問い合わせ先 総務課企画振興グループ 電話5-1111(内線222, 223)



ブルーポピー販売をしています

幌延町の新しい顔となりつつあるブルーポピー(青いケシ)の苗を販売しています。

6月20日は父の日です。お父さんへ、大切な人へ、澄み切った初夏の色の花を贈りませんか?

1鉢 2,500円(箱付)

地方発送しています。

[道内500円・道外800円]

販売：幌延町トナカイ観光牧場
電話5-2050